

SEBASTIAN

WEIGLE 2019

読売日本交響楽団 第588回 定期演奏会
〈第10代常任指揮者就任披露演奏会〉

2019 5/14(火) 19:00 サントリーホール

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

Subscription Concert, No. 588

Tuesday, 14th May 2019 19:00 / Suntory Hall

ヘンツェ: 7つのボレロ

ブルックナー: 交響曲第9番 ニ短調 WAB.109

HENZE: Sieben Boleros

BRUCKNER: Symphony No. 9 in D minor, WAB. 109

フランクフルト歌劇場の音楽総監督を務め
世界の聴衆を魅了するドイツの名匠

読響第10代常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ

The Tenth Principal Conductor

SEBASTIAN WEIGLE

新時代、ヴァイグレ元年。

始まりはブルックナー、未来を拓く一歩を刻みます。



読 響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10:00-18:00・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 協力: アフラック

読響とともにシンフォニーの領域拡大に挑む カペルマイスター、セバスティアン・ヴァイグレ

読売日本交響楽団第10代常任指揮者、セバスティアン・ヴァイグレは就任披露演奏会に自身と共盤を共有するドイツ=オーストリア文化圏の新旧2人の作曲家を選んだ。旧東独時代のベルリン国立歌劇場の第1ソロ・ホルン奏者としてプロのキャリアを始め来日経験もあるが、指揮者としては東西ドイツ統一後の1997年、同歌劇場の「魔笛」(モーツァルト)が日本デビューだった。

ベルリンで終身音楽総監督ダニエル・バレンボイムの薫陶を受けながらオペラのカペルマイスター(楽長)の力を蓄え、2008年にフランクフルト歌劇場の音楽総監督(GMD)に就いて以降、急激に評価を高めた。ドイツの専門誌「オーパンヴェルト」の年間ランキングでヴァイグレ自身は2003年の最優秀指揮者、劇場は2015年と2018年の最優秀歌劇場に選ばれた。2016年に読響と初共演し、翌年には東京二期会「ばらの騎士」(R.シュトラウス)のピット演奏で成功を収めた。

ヴァイグレは就任に先立つ記者会見で「フランクフルト・オペラを率いて10年が過ぎ、シンフォニーの分野での仕事も発展させたいと願っていた矢先、読響からのオファーが来た」と語り、東京で読響とともに演奏会のキャリアを深めていく構えだ。

ヘンツェ(1926~2012)は旧西独を代表する作曲家。読響は第7代常任指揮者ゲルト・アルブレヒトの下で、ドイツ語台本にヘンツェが作曲した「裏切られた海」を三島由紀夫の原作「午後の曳航」に戻した日本語版を世界初演(2003)した。アルブレヒトは2000年の読響ヨーロッパ公演でカナリア諸島音楽祭に参加、音楽祭の委嘱新作であるヘンツェの「7つのポレロ」の世界初演も担った。ヴァイグレのホームページにはレパートリーの詳しい記載があり、ヘンツェの管弦楽作品は「バルカローラ」(1979)1曲。実はこれも、アルブレヒトがチューリヒ・トーンハレ管弦楽団で世界初演した作品だ。「パウル・デッサウの思い出に」と副題があるが、作曲家デッサウの夫人は演出家のルート・ベルクハウスで1980~87年にフランクフルトの首席演出家を務めた。アルブレヒトからヴァイグレへ、フランクフルトから東京へ……と、時間を超越した芸術=音楽にふさわしい不思議な「縁」を感じる。

ブルックナーの交響曲も尾高忠明からアルブレヒト、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ、シルヴァン・カンブルラン……と歴代常任指揮者の間で切れ目なく、しかも、少しずつアプローチの角度を変えながら読響に蓄積されてきた大事なレパートリーだ。ヴァイグレのレパートリーリストにも交響曲の第4、5(準備中)、7、8、9番に「テ・デウム」と、すでに多くの名作が並ぶ。今回とりあげる第9番は、第3楽章アダージョまでしか作曲を完成できなかった遺作。ブルックナーにとっての「未完成交響曲」はそのまま、ヴァイグレと読響の今後に向かって大きく開かれた窓のように思われる。

池田卓夫(音楽ジャーナリスト@いけたく本舗)

セバスティアン・ヴァイグレ 指揮 SEBASTIAN WEIGLE Conductor

オペラとシンフォニーの両方で目覚ましい活躍をみせているドイツの実力派指揮者。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の第1ソロ・ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス(影のない女)を振り、ドイツのオペラ雑誌『オーパンヴェルト』の「最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。11年に同歌劇場管は『オーパンヴェルト』誌の「最優秀オーケストラ」に選ばれ、15年と18年には同歌劇場が「最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響、フランクフルト放送響などで活躍。19年4月、読響第10代常任指揮者に就任。



読売日本交響楽団 第588回 定期演奏会

2019年 5月14日(火)19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017